

【表紙】

【提出書類】	半期報告書
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	令和 2 年 9 月30日
【中間会計期間】	自 令和 2 年 1 月 1 日 至 令和 2 年 6 月30日
【発行者の名称】	B N G銀行N . V . (旧オランダ自治体金融公庫) (BNG Bank N.V.)
【代表者の役職氏名】	執行取締役 John Reichardt 執行取締役 Olivier Labe
【事務連絡者氏名】	弁護士 黒 丸 博 善
【住所】	東京都港区六本木六丁目10番 1 号 六本木ヒルズ森タワー23階 T M I 総合法律事務所
【電話番号】	(03)6438-5511
【縦覧に供する場所】	該当なし

注(1) 本書中、別段の記載がない限り、「ユーロ」または「EUR」と表示される金額は、欧州連合条約により改正された欧州共同体を設立する条約に従い単一通貨を採択した欧州連合加盟国の法定通貨を意味する。2020年9月23日現在、東京の主要銀行により公表されたユーロに対する日本円の為替相場の中値は1ユーロにつき122.84円であった。

(2) 以下、B N G銀行N . V .を「BNG銀行」または「発行者」という。

(3) BNG銀行の事業年度およびオランダ王国の予算会計年度は暦年である。

(4) 本書中の表で、計数が四捨五入されている場合、合計は計数の総和と必ずしも一致しないことがある。

第 1 【募集(売出)債券の状況】

該当事項なし

第2 【発行者の概況】

1 【概況】

2020年上半期の財務成績に関する考察

2020年上半期のBNG銀行の純利益は1億ユーロである。2019年上半期と比べ21%減少したが、これは主に、2020年3月に発生したCOVID-19のパンデミックの影響によるものである。それでも、BNG銀行は、深刻なCOVID-19のパンデミックを考慮し、当年上半期の財務成績を肯定的に振り返っている。COVID-19の発生に伴い、結局、信用および流動性リスクのプレミアムが増加した結果、金融取引損益は金融商品の再評価により悪影響を受けた。さらに、経済見通しが悪いため、BNG銀行は予想信用損失引当金を増やさなければならなかった。

COVID-19のパンデミックは、ヘルスケア部門に大きな影響を与えた。政府および医療保険会社がヘルスケア部門にセーフティネットを設けたため、BNG銀行への影響は当面の間は限定的である。COVID-19のパンデミックによる財政面の影響を一因として、特に地方自治体からの信用需要は予想を上回った。最初の4か月間で、新規長期貸付額は1か月当たり10億ユーロを超えた。当年上半期の最後の2か月間で複数の地方自治体によりエネコの株式が売却されたが、相互借入が利用されたため、BNG銀行の貸付は悪影響を受けた。また、この期間に、地方自治体への短期貸付が急激に減少した。住宅協会からの信用需要には、COVID-19のパンデミックによる目立った影響はなかった。報告期間中の新規長期貸付は、2019年上半期と比べ8億ユーロ減の54億ユーロであった。2019年度末と比較すると、長期貸付ポートフォリオは12億ユーロ増加し854億ユーロとなった。

BNG銀行は、当年上半期に債券の発行により総額98億ユーロの長期資金を調達した。資金調達の点では、当年上半期は激動の時期であった。最初の2か月間は、金融市場の状況は昨年と同様、十分な流動性が非常に低い価格で提供されていた。この期間に、BNG銀行は総額34億ユーロの長期資金を調達した。そのうち1つの取引は、20億ユーロを10年満期で調達するものであった。しかし、3月に状況が急速に悪化し、市場は数週間事実上閉鎖された。その後、市場は徐々に再開したが、当初は信用および流動性スプレッドが急激に拡大した。3月末に、BNG銀行は15億ユーロの5年満期ベンチマーク債を発行した。第2四半期に再び、BNG銀行の信用スプレッドが徐々に縮小した。この期間に、3年満期および10年満期の2つの米ドル建のベンチマーク債を含む長期債券を発行し、49億ユーロが調達された。BNG銀行はまた、非常に有利な条件であったため、欧州中央銀行の第3回「貸出条件付き長期資金供給オペレーション」(TLTRO)への参加を決定した。このTLTROの目的は、超低金利による流動性の提供を通じて実体経済を刺激することである。

長引く低金利により利息損益が圧迫されているにもかかわらず、BNG銀行の利息損益は、予測を大幅に上回り、また2019年同期の利息損益も上回る2億2,500万ユーロとなった。BNG銀行の内部資金をより長期にわたり投資するとの決定がプラスに作用した。長期貸付ポートフォリオの増加も、利息損益が増加した一因であった。短期資金調達金利が非常に魅力的となる時があり、短期エクスポージャーのマージンに良い影響を与えている。顧客ポートフォリオの再編および長期貸付の早期返済も平均以上に寄与し、700万ユーロの受取利息につながった。

結局、金融取引損益は1,400万ユーロのマイナスであった。2019年同期と比べ3,500万ユーロ減少したが、これは主に、COVID-19のパンデミックの発生により、利付有価証券および貸付金に対する信用および流動性リスクのプレミアムが増加したためである。全体的には、純損益を通じて公正価値で測定される金融資産の再評価への影響は3,600万ユーロのマイナスであった。長期金利がさらに低下した結果、顧客スワップの信用要素の価値は約700万ユーロ減少した。実現損益は、BNG銀行の流動性ポートフォリオから利付有価証券を売却したことが一因となり、結局1,000万ユーロのプラスであった。

連結営業費用は、2019年同期と比べ600万ユーロ増加し4,400万ユーロとなった。特に、COVID-19のパンデミックに対応して在宅勤務の促進および新たなシステムへの投資が必要となったこともあり、ITおよび外部サポートの雇用に係る費用が増加した。また、2019年度に偶発的に生じた大幅な信用損失に関連する業務のため、アドバイザリー費用も増加した。BNG銀行の2020年度の欧州破綻処理基金への拠出は、予想通り800万ユーロ近くに設定され、2020年6月に支払われた。

COVID-19のパンデミックの発生に伴う経済見通しの悪化により、2020年上半期のBNG銀行の予想信用損失総額は2,700万ユーロ増加し2億3,200万ユーロとなった。約1,450億ユーロの基礎となるエクスポージャーと比較すると、予想信用損失総額は、BNG銀行のエクスポージャーの高い信用力を反映しているため、依然として低いままである。

総額4,800万ユーロの税費用を計上したため、当年上半期の実効税率は約32%であった。2020年度に過少資本税制が施行された。その結果、BNG銀行の前年度末のレバレッジ比率(LR)が8%を下回る限り、BNG銀行の支払利息の一部は損金不算入となる。2019年度末のBNG銀行のレバレッジ比率が3.6%であったため、2020年上半期の追加の税費用は約1,100万ユーロである。

2019年度末と比較すると、貸借対照表総額は173億ユーロ増加し1,670億ユーロとなった。これは主に、この危機的な時期に、長期金利が低下したこと、BNG銀行がより流動性の高いバッファの維持を決定したことによる。このため、現金および現金同等物の項目は64億ユーロ増加した。貸付金および前渡金の項目は、長期貸付ポートフォリオの増加により、約4億ユーロ増加した。長期金利のさらなる低下は、貸借対照表項目のデリバティブ、現金担保およびポートフォリオ・ヘッジ会計を適用する貸付金に対する価値調整の増加に反映されている。

報告期間中、BNG銀行の株主資本は49億ユーロで、ほとんど変化しなかった。純利益は、未実現の準備金総額の減少分を大幅に相殺している。リスク調整資産総額が増加したため、リスク加重ソルベンシー比率は低下した。貸付ポートフォリオが増加し、金利が低下したため、BNG銀行のリスク加重エクスポージャーは増加した。BNG銀行の2020年6月末の普通株式等Tier 1比率およびTier 1比率はそれぞれ31%および36%であった。貸借対照表総額が増加したため、BNG銀行のレバレッジ比率は、2019年度末と比べ0.4パーセンテージ・ポイント低下し3.2%となった。

見通し

現在のCOVID-19のパンデミックのため、金融市場のボラティリティは、当年度は特に高止まりすると予想されている。したがって、BNG銀行は、2020年度の業績予想について意見を述べるのは賢明でないと考えている。将来の市場価値調整または追加の減損に関する信頼性の高い見積りは、本質的に困難である点に留意すること。

それでも、BNG銀行は、低金利を一因として、新規長期貸付の年間目標である100億ユーロを上回ると予想している。COVID-19のパンデミックによる社会的および財務的な影響が広範囲に及んでいるため、顧客は依然として不安定な状況にある。BNG銀行は、顧客を支えるために可能な限りの努力を続けていく。

長期貸付ポートフォリオが増加したこともあり、BNG銀行は、2020年度の長期資本市場における資金調達目標を10億ユーロ増の160億ユーロとすることを決定した。とりわけ、2020年下半期には新たに2つの社会的責任投資債（SRI債券）が発行される予定である。

欧州のベンチマーク規則（BMR）に従った新たな参照金利の導入が本格化している。参照金利は関連市場を代表し、締結済の取引に基づくものでなければならない。欧州中央銀行のベンチマークに関するワーキンググループは、EONIAの代替として€STR（ユーロ短期金利）を導入した。2020年7月27日、中央清算機関であるLCHおよびEurexは、デリバティブの評価をEONIAから€STRに切り替えた。その結果、対象となるデリバティブは、BNG銀行にとって結局価値が低下することとなる。この影響を補償するため、BNG銀行はLCHおよびEurexから一時金を受け取った。他の金融取引先との同様の決済は、今後数か月間で決定されると予想される。BNG銀行は、損益計算書が影響を受けないような方法で、それらの取引を処理することを目指している。

BNG銀行の連結営業費用は当年下半期に増加する予定である。2020年度全体の営業費用は約9,300万ユーロとなると予想される。与信処理の改善に必要な職員の欠員が徐々に埋まり、外部サポートを受けたため、永久職員および外部職員の雇用に係る費用は、今後の数四半期にわたり増加する。ITアプリケーションの設定または拡充および在宅勤務の導入支援のための追加費用により、IT費用は増加している。2020年度の法定銀行税への拠出は3,400万ユーロで、10月に支払われる予定である。

現状を踏まえると、2020年度の利息損益は、2019年度末の予想を上回る4億6,000万ユーロから5億ユーロまでの範囲となるはずである。この理由としては、当年上半期の利息損益の増加、長期貸付ポートフォリオの増加、短期資金調達のための有利な金利の持続および欧州中央銀行のTLTROによる資金支援の有利な条件が挙げられる。

2 【資本構成】

2020年6月30日現在のBNG銀行の資本構成（未監査）は以下のとおりである。

	2020年6月30日現在
	(未監査)
	(単位：百万ユーロ)
授權株式資本：2億5,000万ユーロ	
資本金（発行済全額払込済）	139
資本準備金	6
利益剰余金	3,705
再評価剰余金	60
キャッシュフロー・ヘッジ準備金	15
自己信用調整	10
ヘッジコスト準備金	88
当期純利益	100
ハイブリッド資本	733
負債証券	117,472
受託資金	5,890
劣後債務	33
資本合計	128,251

3 【組織】

2020年上半期中において、BNG銀行の組織に重大な変更はなかった。

4 【経理の状況】

BNG銀行の連結中間財務書類（未監査）は、以下のとおりである。

連結貸借対照表
(単位：百万ユーロ)

	2020年6月30日現在	2019年12月31日現在
注記		
資産		
現金および中央銀行残高	7,695	1,272
銀行預入金	59	66
差入現金担保	18,861	14,643
純損益を通じて公正価値で測定される金融資産	1,516	1,764
デリバティブ	10,708	10,004
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産	10,213	9,222
償却原価で測定される利付有価証券	8,064	7,764
償却原価で測定される貸付金および前渡金	88,681	88,279
ポートフォリオ・ヘッジ会計を適用する貸付金に対する価値調整	20,950	16,462
関連会社および共同支配企業	36	35
有形固定資産	17	18
未収還付税金	58	30
その他の資産	117	130
資産合計	166,975	149,689
負債		
銀行借入金	9,789	1,933
受入現金担保	1,279	1,137
純損益を通じて公正価値で測定される金融負債	691	674
デリバティブ	26,724	22,651
負債証券	117,472	112,661
受託資金	5,890	5,575
劣後債務	33	33
繰延税金負債	48	78
その他の負債	193	60
負債合計	162,119	144,802
株主資本		
資本金	139	139
資本準備金	6	6
利益剰余金	3,705	3,567
再評価剰余金	60	84
キャッシュフロー・ヘッジ準備金	15	13
自己信用調整	10	8
ヘッジコスト準備金	88	174
当期純利益	100	163
株主に帰属する持分	4,123	4,154
ハイブリッド資本	733	733
株主資本合計	4,856	4,887
負債および株主資本合計	166,975	149,689

連結損益計算書
(単位：百万ユーロ)

		2020年上半期	2019年上半期
	注記		
- 実効金利法を用いて計算した受取利息		2,302	2,440
- その他の受取利息		232	331
受取利息合計		2,534	2,771
- 実効金利法を用いて計算した支払利息		2,263	2,524
- その他の支払利息		46	47
支払利息合計		2,309	2,571
利息損益	2	225	200
- 受取手数料		14	16
- 支払手数料		2	1
手数料損益		12	15
金融取引損益	3	(14)	21
関連会社および共同支配企業による損益		3	0
その他の損益		1	1
収益合計		227	237
人件費		21	20
その他の一般管理費		21	16
減価償却費		2	2
営業費用合計		44	38
金融資産の減損損失純額	4	27	20
関連会社および共同支配企業の減損損失純額		0	1
破綻処理基金への拠出		8	8
その他の費用合計		35	29
税引前当期利益		148	170
法人所得税費用		48	42
当期純利益		100	128
- うちハイブリッド資本所有者に帰属		25	22
- うち株主に帰属		75	106

連結包括利益計算書
(単位：百万ユーロ)
計算書の数値はすべて税引後である。

	2020年上半期	2019年上半期
当期純利益	100	128
株主資本で直接認識される組替調整される損益		
キャッシュフロー・ヘッジ準備金の変動：		
- 未実現価額の変動	2	3
	2	3
ヘッジコスト準備金の変動：		
- 未実現価額の変動	(86)	(97)
- 純損益に振り替えられた実現価額の変動	0	-
	(86)	(97)
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産に係る再評価剰余金の変動：		
- 未実現価額の変動	(19)	8
- 純損益に振り替えられた実現価額の変動	(5)	(9)
	(24)	(1)
組替調整される損益合計	(108)	(95)
株主資本で直接認識される組替調整されない損益：		
- FVTPLで測定するものとして指定された金融負債の信用リスクの変動に起因する公正価値の変動	2	0
組替調整されない損益合計	2	0
株主資本で直接認識される損益	(106)	(95)
合計	(6)	33
- うちハイブリッド資本所有者に帰属	0	22
- うち株主に帰属	(6)	11

連結キャッシュフロー計算書
(単位：百万ユーロ)

	2020年上半期	2019年上半期
営業活動によるキャッシュフロー		
税引前当期利益	148	170
調整：		
- 減価償却費	2	2
- 減損	28	22
- 純損益を通じて測定される未実現損益	24	(11)
営業資産および負債の変動：		
- 銀行預入金および銀行借入金（要求払以外）の変動	(44)	382
- 差入現金担保および受入現金担保の変動	(4,078)	(2,992)
- 貸付金および前渡金の変動	(301)	(749)
- 受託資金の変動	301	2,136
- デリバティブの変動	(85)	151
- 支払法人税	(77)	(133)
- 営業活動によるその他の変動	(118)	(153)
営業活動によるキャッシュフロー純額	(4,200)	(1,175)
投資活動によるキャッシュフロー		
投資および取得：		
- 純損益を通じて公正価値で測定される金融資産	(1)	(1)
- その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産	(2,723)	(897)
- 償却原価で測定される利付有価証券	(1,668)	(896)
- 関連会社および共同支配企業に対する投資	-	-
- 有形固定資産	(1)	(1)
処分および償還：		
- 純損益を通じて公正価値で測定される金融資産	285	16
- その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産	1,755	1,339
- 償却原価で測定される利付有価証券	1,459	1,066
- 関連会社および共同支配企業に対する投資	-	1
- 有形固定資産	-	-
投資活動によるキャッシュフロー純額	(894)	627
財務活動によるキャッシュフロー		
受取額：		
- 欧州中央銀行の資金供給（TLTRO）	8,000	-
- 純損益を通じて公正価値で測定される金融負債	6	6
- 負債証券	97,302	224,464
支払額：		
- 純損益を通じて公正価値で測定される金融負債	(16)	(67)
- 負債証券	(93,748)	(213,591)
- 劣後債務	0	0
- ハイブリッド資本に係る配当金	(25)	(25)
- 株主に対する配当金	-	(159)
財務活動によるキャッシュフロー純額	11,519	10,628

	2020年上半期	2019年上半期
現金および現金同等物の純変動	6,425	10,080
1月1日現在の現金および現金同等物	1,276	1,591
6月30日現在の現金および現金同等物	7,701	11,671
6月30日現在の現金および現金同等物：		
- 現金および中央銀行残高	7,695	11,670
- 「銀行預入金」項目における現金同等物	7	3
- 「銀行借入金」項目における現金同等物	(1)	(2)
	7,701	11,671
営業活動による利息キャッシュフロー		
受取利息額	2,957	2,902
支払利息額	(2,813)	(2,773)
	144	129

連結株主資本変動計算書
(単位:百万ユーロ)
計算書の数値はすべて税引後である。

2020年上半期

	資本金	資本 準備金	再評価 剰余金	キャッ シュ・ ロー・ ヘッジ 準備金	自己 信用 調整	ヘッジ コスト 準備金	利益 剰余金	未処分 利益	株主に 帰属 する 持分	ハイブ リッド 資本	合計
2020年1月1日											
現在の残高	139	6	84	13	8	174	3,567	163	4,154	733	4,887
当期純利益	-	-	-	-	-	-	-	100	100	-	100
自己信用調整 (OCA)の変動	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	2
ヘッジコスト 準備金の変動	-	-	-	-	-	(86)	-	-	(86)	-	(86)
未実現損益	-	-	(24)	2	-	-	-	-	(22)	-	(22)
包括利益合計	-	-	(24)	2	2	(86)	-	100	(6)	-	(6)
BNG銀行株主に 対する配当金	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハイブリッド 資本所有者に 対する配当金	-	-	-	-	-	-	(25)	-	(25)	-	(25)
前年度利益処分 額	-	-	-	-	-	-	163	(163)	-	-	-
2020年6月30日											
現在の残高	139	6	60	15	10	88	3,705	100	4,123	733	4,856

2019年上半期

	資本金	資本 準備金	再評価 剰余金	キャッ シュ・ ロー・ ヘッジ 準備金	自己 信用 調整	ヘッジ コスト 準備金	利益 剰余金	未処分 利益	株主に 帰属 する 持分	ハイブ リッド 資本	合計
2019年1月1日											
現在の残高	139	6	125	10	9	222	3,410	337	4,258	733	4,991
当期純利益	-	-	-	-	-	-	-	128	128	-	128
自己信用調整 (OCA)の変動	-	-	-	-	-	-	-	-	0	-	0
ヘッジコスト 準備金の変動	-	-	-	-	-	(97)	-	-	(97)	-	(97)
未実現損益	-	-	(1)	3	-	-	-	-	2	-	2
包括利益合計	-	-	(1)	3	-	(97)	-	128	33	-	33
BNG銀行株主に 対する配当金	-	-	-	-	-	-	(159)	-	(159)	-	(159)
ハイブリッド 資本所有者に 対する配当金	-	-	-	-	-	-	(22)	-	(22)	-	(22)
前年度利益処分 額	-	-	-	-	-	-	337	(337)	-	-	-
2019年6月30日											
現在の残高	139	6	124	13	9	125	3,566	128	4,110	733	4,843

連結中間財務書類の会計原則

会社概要

連結中間報告書は、2020年9月4日に執行取締役会により公開を目的として作成および発行される。BNG銀行N.V.(以下「BNG銀行」という。)は、オランダの法律に基づく法定二段構造企業である。BNG銀行の資本金の半分をオランダ王国政府が所有し、残りの半分を州、地方自治体および地域治水委員会が所有している。BNG銀行は、オランダ、ハーグ Koninginnegracht 2 に登録事務所を置き(商工会議所番号 27008387で登録)、支店はない。

適用法令

連結中間報告書は、欧州連合全域で採用されているIAS第34号「中間財務報告」に従い作成される。中間報告書には、完全な財務書類に必要な情報のすべてが記載されるわけではないため、2019年度連結財務書類と併せて読む必要がある。本連結中間報告書の作成にあたり、重要な見積りおよび方法に関しては、新しく改訂された基準の採用を除き、2019年度連結財務書類と同じ制度が適用された。また、当行は、COVID-19のパンデミックが連結中間報告書における見積りおよび方法にさらなる影響を及ぼさないか否かを確認した。

損益の評価および決定に適用される重要な会計原則

連結中間報告書は、継続企業の前提に基づき作成される。貸借対照表項目のほとんどは、償却原価で評価される。貸借対照表項目「純損益を通じて公正価値で測定される(FVTPL)金融資産」、「その他の包括利益を通じて公正価値で測定される(FVOCI)金融資産」、「デリバティブ」および「純損益を通じて公正価値で測定される(FVTPL)金融負債」は、公正価値で測定される。貸借対照表項目「関連会社および共同支配企業」は、持分法に準拠し表示される。貸借対照表項目「有形固定資産」は、減価償却累計額控除後の原価で表示される。収益は、BNG銀行に経済価値が発生する見込みがあり、かつ信頼性を持って収益を決定できる場合に認識される。費用は、可能な場合、サービスが提供された期間またはこれらの費用を相殺する関連した収益に割り当てられる。詳細については、個々の貸借対照表項目に係る会計原則を参照のこと。

連結の会計原則

連結中間報告書の作成に使用される親会社とその子会社の中間報告書は、同一の報告日時点で作成され、同一の原則に基づく。収益、費用、配当金等のグループ会社内取引および残高のすべては、連結中間報告書で完全に消去されている。連結に含まれる子会社の報告期間はBNG銀行と一致している。別段の記載がない限り、中間報告書に記載の金額はすべて百万ユーロ単位で表記される。ユーロはBNG銀行の機能通貨であり報告通貨である。

本連結中間報告書は、親会社およびBNG銀行が支配するすべての子会社の中間決算から構成される。支配は、BNG銀行が投資者となっていることにより変動リターンに対するエクスポージャーを有し、当該投資に係した活動に対するパワーを行使することで当該リターンに影響を及ぼすことができる場合に存在する。グループ会社は、支配を獲得した日から、支配が消滅する時まで、完全に連結対象となる。BNG銀行が受益権または持分を保有する投資ファンドの支配を有するか否かを決定する際には、参加者としてBNG銀行が保有する財務上の利害関係が考慮される。

COVID-19による中間報告書への影響

世界的なCOVID-19のパンデミックの発生のため、2020年上半期は他のどの時期とも異なるものとなった。かかる発生により、あらゆる人が影響を受け、BNG銀行も運営面および財務面の両方において影響を受けた。COVID-19のパンデミックの期間および経済活動への悪影響の継続次第で、2020年度にさらに、業績がマイナスとなり、流動性が制限され、資産の追加減損が発生する可能性がある。2020年度の残りの期間およびそれ以降における当行の活動への正確な影響は予測不能である。しかしながら、不確実ではあるものの、当行は、COVID-19ウイルスの影響が当行の財務状態または資金調達および流動性に重大な悪影響を与えるとは考えていない。COVID-19のパンデミックによるBNG銀行の業務への影響については、上記「1 概況 - 2020年上半期の財務成績に関する考察」を参照のこと。

COVID-19のパンデミックによる財務成績への影響ならびに使用される重要な見積りおよび方法の詳細は、関連する注記に記載されている。

比較数値の表示の変更

2020年3月末、当行は当時の脱漏の兆候を受け、信用状の徹底的な再検討を行った。当行は以前開示されたデータは完全ではないと判断した。その結果、2012年度（5億600万米ドル）および2015年度（123万8,000米ドル）に締結された4件の取引について、現在155万3,000ユーロの追加額が当行のオフバランスシートのエクスポージャーに追加されている。当行は、当期および過年度のCET 1比率およびTier 1比率、ならびに当期および過年度の貸借対照表または損益計算書のいずれの項目も影響を受けていないため、この脱漏による過年度および当期（中間）財務書類への影響は限定的であると結論付けた。

「偶発債務」の比較数値は、以下の表で変更されている。

- ・ 金融資産およびオフバランスシート契約の減損のステージ別内訳
- ・ 支払猶予されたエクスポージャー
- ・ オフバランス

適用法令

連結中間報告書は、国際会計基準審議会（IASB）が発行し欧州連合全域で採用しているIFRSに準拠して作成された。BNG銀行の連結中間数値は、2019年度財務書類について適用された原則および計算手法に従い作成された。

一般に、BNG銀行は、EUにより採用されていないIASB発行の新規または改訂基準および解釈指針を適用しない。BNG銀行は、EUにより採用された2020年1月1日より後の事業年度に強制適用される改訂基準および解釈指針の早期適用を原則として行わないことも決定した。金利指標改革のフェーズ1に関連する改訂については、除外されている。詳細は、2019年度財務書類に記載されている。

以下の新規または改訂基準、解釈指針および改善の適用により、BNG銀行の評価、損益の決定および開示の面で、本2020年度連結中間報告書に重要な調整は行われなかった。

EUにより採用され2020年1月1日以降に発効した、適用されている会計基準

- ・ IFRS第9号、IAS第39号およびIFRS第7号の改訂：2019年9月、IASBは金利指標改革を発行した。EUは2020年1月15日に本改訂を承認した。本改訂は、特定のヘッジ会計要件を修正し、影響を受けるヘッジについて、現在の金利指標によって影響を受けるヘッジ対象またはヘッジ手段が現在進行中の金利指標改革の結果として修正されるまでの不確実性のある期間においてヘッジ会計の継続を認めるものである。本改訂は、金利指標改革のフェーズ1に関連する。本改訂は、2020年1月1日以降に開始する年次報告期間について発効する。BNG銀行は、2019年12月31日に終了する報告期間にIFRS第9号/IAS第39号の改訂を早期適用することを選択した。
- ・ IFRS基準の改善 IFRS第3号「企業結合」ならびにIAS第1号「財務諸表の表示」およびIAS第8号「会計方針、会計上の見積りの変更及び誤謬」。これは、「事業」および「重要性がある」の定義に関する理解を向上させるものである。本改善によるBNG銀行への影響はない。

EUにより採用されていない未適用の会計基準

当報告期間または将来の報告期間および予測可能な取引において、BNG銀行に重要な影響を及ぼすと見込まれる、未発効の他の基準はない。

セグメント別情報

BNG銀行は、リソース配分と業績測定を決定する際に、貸付業務および地域開発業務を区別している。BNG銀行は、その貸付業務の管理と設定において、異なるセグメントまたは事業ユニットを区別していない。BNG銀行の地域開発業務はその貸付業務と比較して重要ではない。したがって、本中間報告書にはセグメント別情報は含まれない。

配当

2020年上半期に開催された株主総会の後、2019年度の配当金として7,100万ユーロが提案されたが、まだ支払われていない。欧州中央銀行は、欧州の銀行に対し、この配当金の支払いを2020年12月31日より後に延期するよう勧告した。BNG銀行からの質問に応じて、規制当局はBNG銀行に、配当金支払いの延期勧告は事実上一時的なものであると明確に知らせた。このような背景から、監督取締役会および執行取締役会は勧告に従うことを決定した。ハイブリッド資本の所有者に対する配当金2,500万ユーロは2020年上半期に分配される。この分配は、法人所得税上、損金不算入である。BNG銀行は、2020年上半期の業績に係る中間配当を支払う予定はない。

連結中間財務書類に対する注記

1 負債証券

「負債証券」項目は2020年上半期に48億ユーロ増加した。これは主に、bond・ローンが29億ユーロ増加し、（コマーシャル・ペーパーの形による）短期資金調達が増加したためである。

さらに、ミクロ・ヘッジ会計を適用する長期負債証券の価値調整合計が約18億ユーロの増加を示した。BNG銀行は、その長期資金調達業務に関連して、2020年上半期に98億ユーロ（2019年上半期：102億ユーロ）の長期負債証券を発行した。報告期間における長期負債証券の償還価額合計は81億ユーロ（2019年上半期：97億ユーロ）であった。

2 利息損益

	2020年上半期	2019年上半期
受取利息		
実効金利法を用いて計算した受取利息：		
- 償却原価で測定される金融資産	1,034	1,080
- その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産	61	75
- ヘッジ会計を適用するデリバティブ	1,175	1,266
- 金融負債に係るマイナスの支払利息	32	19
	2,302	2,440
その他の受取利息：		
- 純損益を通じて公正価値で測定するものとして指定された金融資産	18	21
- 強制的に純損益を通じて公正価値で測定される金融資産	1	1
- ヘッジ会計を適用しないデリバティブ	213	309
	232	331
受取利息合計	2,534	2,771
支払利息		
実効金利法を用いて計算した支払利息：		
- 償却原価で測定される金融負債	1,038	1,258
- ヘッジ会計を適用するデリバティブ	1,166	1,212
- 金融資産に係るマイナスの支払利息	59	54
	2,263	2,524
その他の支払利息：		
- 純損益を通じて公正価値で測定するものとして指定された金融負債	15	15
- ヘッジ会計を適用しないデリバティブ	25	29
- その他	6	3
	46	47
支払利息合計	2,309	2,571
利息損益合計	225	200

3 金融取引損益

以下の表は、実現および未実現の市場価値変動による金融取引損益の内訳を示している。

	2020年上半期	2019年上半期
信用スプレッドおよび流動性スプレッドの変動に起因する、純損益を通じて公正価値で測定する金融資産の市場価値変動の構成：		
- 利付有価証券	(23)	31
- ストラクチャード・ローン	(13)	2
	(36)	33
ヘッジ会計による損益		
- ポートフォリオ公正価値ヘッジ会計	7	(3)
- ミクロ公正価値ヘッジ会計	16	16
- ミクロ・キャッシュフロー・ヘッジ会計	3	0
	26	13
デリバティブに係る取引先信用リスクの変動 (CVA / DVA)	(7)	(11)
売却および買取りによる実現損益	10	10
その他の市場価値変動	(7)	(24)
合計	(14)	21

COVID-19のパンデミックにより、「純損益を通じて公正価値で測定される金融資産」に計上された複数の利付有価証券および貸付金の信用および流動性スプレッドが拡大したため、金融取引損益は悪影響を受けた。BNG銀行の流動性ポートフォリオからの売却が結局プラスの結果となったことに加え、売却による実現損益には、2007年度に購入した主要なインフレ連動債の「真正売買および買戻し」が2月に成功裏に完了したこと、また関連デリバティブを再構築したことも含まれている。これらの取引の目的は、損益計算書のボラティリティを低減することで、それにより、2020年2月から、この債券は償却原価で評価され、関連デリバティブと共にヘッジ会計の対象となっている。これらの取引の完了により、実現損益は300万ユーロのプラスとなった。その他の市場価値変動は、とりわけ、ヘッジ会計を適用しないデリバティブの未実現の市場価値変動を含む。

4 金融資産およびオフバランスシート契約の減損

金融資産およびオフバランスシート契約の減損のステージ別内訳

以下の表は、減損の対象となる金融資産およびオフバランスシート契約の3つの減損のステージ別内訳を示している。

ステージ1：当初認識以降、信用リスクの著しい増大（SICR）がない正常債権エクスポージャー

ステージ2：当初認識以降に、信用リスクの著しい増大があった正常債権エクスポージャー（信用減損なし）

ステージ3：不良債権エクスポージャー（信用減損あり）

2020年6月30日現在

	帳簿価額総額						信用損失引当金（評価性）	
	正常債権			不良債権			正常債権	不良債権
	ステージ1	ステージ2	ステージ3	ステージ1	ステージ2	ステージ3	ステージ1	ステージ2
帳簿価額	ステージ1	ステージ2	ステージ3	ステージ1	ステージ2	ステージ3	ステージ1	ステージ2
減損対象の金融資産								
現金および								
中央銀行残高	7,695	7,695	-	-	-	-	-	-
銀行預入金	59	59	-	-	0	-	-	-
差入現金担保	18,861	18,861	-	-	-	-	-	-
その他の包括利益								
を通じて公正価値								
で測定される金融								
資産 ¹	10,213	10,153	60	-	0	(1)	-	-
償却原価で測定								
される利付有価								
証券	8,064	7,841	230	-	(1)	(6)	-	-
償却原価で測定								
される貸付金								
および前渡金 ²	88,681	85,567	2,926	407	(9)	(29)	(181)	(181)
合計	133,573	130,176	3,216	407	(10)	(36)	(181)	(181)

注1 その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産に対する信用損失引当金はその他の包括利益に含まれており、（正味）帳簿価額には含まれていない。

注2 帳簿価額総額。信用損失引当金は、ヘッジ会計による価値調整に基づいている。

2020年6月30日現在

	額面金額			引当金（負債性）		
	正常債権			不良債権		
	ステージ1	ステージ2	ステージ3	ステージ1	ステージ2	ステージ3
オフバランスシート契約						
偶発債務	1,646	1	-	-	-	-
取消可能信用供与契約	3,896	214	1	-	-	-
取消不能信用供与契約	5,430	151	25	(2)	(3)	-
合計	10,972	366	26	(2)	(3)	-

2019年6月30日現在							
	帳簿価額総額				信用損失引当金（評価性）		
	正常債権		不良債権		正常債権		不良債権
	帳簿価額	ステージ1	ステージ2	ステージ3	ステージ1	ステージ2	ステージ3
減損対象の金融資産							
現金および							
中央銀行残高	11,670	11,670	-	-	-	-	-
銀行預入金	76	76	-	-	-	-	-
差入現金担保	15,273	15,273	-	-	-	-	-
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産 ¹	9,320	9,262	58	-	-	(1)	-
償却原価で測定される利付有価証券	7,271	7,196	80	-	-	(5)	-
償却原価で測定される貸付金および前渡金 ²	85,969	84,585	1,350	95	(4)	(27)	(30)
合計	129,579	128,062	1,488	95	(4)	(33)	(30)

注1 その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産に対する信用損失引当金はその他の包括利益に含まれており、（正味）帳簿価額には含まれていない。

注2 帳簿価額総額。信用損失引当金は、ヘッジ会計による価値調整に基づいている。

2019年6月30日現在						
	額面金額			引当金（負債性）		
	正常債権		不良債権	正常債権		不良債権
	ステージ1	ステージ2	ステージ3	ステージ1	ステージ2	ステージ3
オフバランスシート契約						
偶発債務	1,590	1	-	-	-	-
取消可能信用供与契約	4,000	36	-	-	-	-
取消不能信用供与契約	6,822	93	15	(1)	(1)	(3)
合計	12,412	130	15	(1)	(1)	(3)

2020年6月30日現在、不良債権エクスポージャーは合計4億3,300万ユーロ（2019年度末：3億2,100万ユーロ）であった。不良債権エクスポージャーは、ポートフォリオ合計の0.3%（2019年度末：0.2%）を占め、14件の債務者（2019年度末：10件の債務者）に関係する。不良債権エクスポージャーの増加の大部分は、弁済可能性が低いとの理由でステージ2からステージ3に移動した1件の債務者によるものである。これまでのところ、各銀行はこの債務者の債務について全額返済を受けた。BNG銀行は、不良債権エクスポージャーに関連して合計4,300万ユーロ（2019年度末：3,600万ユーロ）の政府保証を受けている。以下の表は、不良債権エクスポージャーの推移を示している。

	2020年上半期	2019年度
期首残高	321	57
既存の不良債権エクスポージャーの増加	1	-
正常債権から不良債権エクスポージャーへの移動	130	301
不良債権から正常債権エクスポージャーへの移動	-	(22)
不良債権エクスポージャーに係る返済および決済	(19)	(15)
期末残高	433	321

予想信用損失引当金の変動

以下の表は、金融資産に係る予想信用損失引当金（評価性）およびオフバランスシート契約に係る予想信用損失引当金（負債性）の変動を示している。

	2020年上半期					期末残高
	期首残高	組成および 取得による 増加	認識中止、 返済および 処分による 減少	信用リスク の変動に よる変動 (純額)	償却による 引当金の 減少	
引当金（評価性）						
現金および中央銀行残高	-	-	-	-	-	-
銀行預入金	0	0	0	0	-	0
その他の包括利益を通じて						
公正価値で測定される 金融資産	1	0	0	0	-	1
償却原価で測定される 利付有価証券	6	1	0	0	-	7
償却原価で測定される 貸付金および前渡金	193	3	(3)	26	-	219
	200	4	(3)	26	-	227
引当金（負債性）						
オフバランスシート契約	5	1	(4)	3	-	5
	2019年上半期					期末残高
	期首残高	組成および 取得による 増加	認識中止、 返済および 処分による 減少	信用リスク の変動に よる変動 (純額)	償却による 引当金の 減少	
引当金（評価性）						
現金および中央銀行残高	-	-	-	-	-	-
銀行預入金	0	-	0	0	-	0
その他の包括利益を通じて						
公正価値で測定される 金融資産	1	0	0	0	-	1
償却原価で測定される 利付有価証券	7	0	(2)	0	-	5
償却原価で測定される 貸付金および前渡金	47	2	(2)	19	(5)	61
	55	2	(4)	19	(5)	67
引当金（負債性）						
オフバランスシート契約	2	1	(1)	3	-	5

契約上のキャッシュフローの変更

全期間の予想信用損失に相当する金額で測定された損失引当金が設定されている（すなわちステージ2または3）金融資産で、2020年上半期中に契約上のキャッシュフローが変更されたものはない。全期間の予想信用損失に相当する金額で測定された損失引当金が設定され（ステージ2または3）、前の報告期間に条件変更が行われた金融資産のうち、2020年上半期中にステージ1に戻されたものはない。

主要なインプットおよび仮定

金融資産の予想信用損失（ECL）は、信用リスクの著しい増大が発生したかどうかによって、12か月または全期間のどちらかに基づいて測定される。予想信用損失合計は、デフォルト確率（PD）、デフォルト時損失率（LGD）およびデフォルト時エクスポージャー（EAD）の結果を割り引いたものである。

デフォルト確率

PDは、ECLおよびSICRの決定における主要な構成要素として使用される。BNG銀行は、外部格付が入手できないエクスポージャーについて、主に専門家の判断に基づくPDモデルを開発した。IFRS第9号の遵守およびいわゆる「ポイント・イン・タイム」のPDを確保するため、BNG銀行は将来に関する情報（FLI）を含んだオーバーレイ・モデルを開発した。ステージの決定においては、将来に関する情報を調整済の信用格付が使用されている。BNG銀行は、財務書類内の他の関連する見積りに対するインプットと整合するような、経済予測に基づく3つの内部開発シナリオを適用している。提案されたマクロ経済予測は、外部のマクロ経済予測と比較され、シナリオの外部検証性を確保している。シナリオは、資産・負債委員会（ALCO）で承認されている。これによって、BNG銀行はPDが合理的かつ裏付可能であることを確保している。

デフォルト時損失率

信用ポートフォリオのデフォルト率が低く、過去の内部のLGDデータが不足しているため、BNG銀行はLGDモデルを確立することができない。したがって、BNG銀行はエクスポージャー全体に対して、4つの異なるLGD率を伴う基本的な一律LGDアプローチを適用している。

- ・（オランダ）中央政府または地方政府が交付または保証するエクスポージャーについて0%
- ・ EU内の中央政府または地方政府が発行する政府債について10%
- ・ 中央政府または地方政府の保証がないエクスポージャーおよび優先無担保債について35%
- ・ 劣後ローンについて75%

デフォルト時エクスポージャー

貸付金および利付有価証券（証券化を除く）に係るEADは、債務者が12か月間または全期間にわたって義務を負う契約上の返済額に基づく。任意返済または早期償還は、過去の実績から頻度が高くないため、考慮に入れていない。証券化に関する将来の契約上の返済額は、外部情報源から得られる見積定率期限前返済率に基づく。コミットメント（オフバランスシート）ファシリティの場合、最大エクスポージャーは、12か月間または全期間（減損のステージによる）のどちらかにおいて予想される融資枠の使用を反映するよう調整される。

信用リスクの著しい増大

BNG銀行は、認識以降の信用リスクの著しい変動を評価するためのインプット・パラメータとして、将来に関する情報について調整されたポイント・イン・タイムPDを適用している。さらにBNG銀行は、信用リスクの著しい増大を判定するための補完基準として、支払猶予措置および30日超の期日経過を使用している。他方で、BNG銀行は認識以降の信用リスクの著しい変動のモニタリングについて、低信用リスクである場合の除外も適用している。この場合、信用リスクの著しい増大が生じているかを判定せずに、12か月間のECLを使用して減損が測定される。BNG銀行は、投資適格の格付を有する金融資産については「低信用リスク」とであるとみなす。債券については、BNG銀行はBBB-以上を投資適格とみなしている。貸付金については、内部相手先信用格付を使用して投資適格であるかを判定している。内部相手先信用格付は、多数の市場セクター固有の内部格付モデルから導き出され、これらのモデルは外部的に検証されている。

BNG銀行は、ステージ3の減損金額を決定する際に、専門家を利用して判断を行っている。このアプローチは、特別管理部により金融商品レベルごとに実行される。

将来に関するマクロ経済情報

主要なマクロ経済変数を識別するために、過去のデータの分析が実施され、これらの変数は四半期毎に提供される。専門家による判断が適用される。証券化以外に係るデフォルト確率の決定に適用されるマクロ経済要素は、名目国内総生産（GDP）、失業率および賃金率である。証券化について適用されるマクロ経済要素は、住宅価格指数、長期金利および債務である。

BNG銀行の基本シナリオでは、2020年第2四半期の強い景気後退後に、第3四半期から若干の回復が想定されている。COVID-19のパンデミックの影響に関する不確実性が高いため、BNG銀行は下降シナリオの可能性を35%に引き上げることを決定した。BNG銀行は、経済予想に沿った結果をもたらすような、いわゆるモデル後の調整を行っていない。

証券化以外

マクロ経済変数	2020年6月30日現在の期間	2019年12月31日現在の期間
オランダの国内総生産（GDP）	3年	3年
オランダの失業率	3年	3年
賃金上昇率	3年	3年

シナリオ

	2020年6月30日現在の加重	2019年12月31日現在の加重
基本シナリオ	60%	70%
上昇シナリオ	5%	10%
下降シナリオ	35%	20%

証券化

マクロ経済変数	2020年6月30日現在の期間	2019年12月31日現在の期間
ユーロ圏（17か国）の住宅価格指数	3年	3年
ユーロ圏（19か国）の長期金利	3年	3年
ユーロ圏の債務（家計およびNPISHへの貸付） ¹	3年	3年

シナリオ

	2020年6月30日現在の加重	2019年12月31日現在の加重
基本シナリオ	60%	65%
上昇シナリオ	5%	10%
下降シナリオ	35%	25%

注1 対家計民間非営利団体

不良債権エクスポージャー

BNG銀行は、以下の基準のいずれかを満たす場合、不良債権の定義と完全に合致している金融商品を債務不履行と定義する。

- ・ BNG銀行が、債務者によるBNG銀行に対する信用債務の支払可能性が低いとみなしている。
- ・ 債務者によるBNG銀行に対する重要な信用債務の支払いが90日以上遅延している。

BNG銀行は、「支払可能性が低いこと」について以下の指標を採用している。

- ・ 債務者の収入源が、支払債務を履行するには不十分とみなされる。
- ・ 将来キャッシュフローに対する疑義の兆候が見られる。
- ・ 債務者の負債比率が著しく上昇した。
- ・ 1件以上の約款違反が発生した。
- ・ BNG銀行が保証の実行を求めたまたは担保権を実行した。
- ・ 他の債権者に対する著しい支払遅延（登記所に記録された）。
- ・ 債務者の市場セクターに経済的危機があり、同セクター内の債務者が信用弱者とみなされている。
- ・ 財務的困難により、債務者は市場セクターにおいて活発に活動しているとはみなされなくなった。
- ・ BNG銀行以外の債権者が当該債務者の破産を申し立てた。

信用損失引当金の感応度分析

2020年6月30日現在の信用損失引当金の金額の（再）計算において、インプットの変動を識別する信用損失引当金の感応度を測定するため、異なるシナリオが使用されている。

使用されているシナリオ（以下、シナリオA）では、減損の対象となるすべての個別エクスポージャーの信用格付が1ノッチ引き下げられる（例えば、AAAからAA+）。これらの（引き下げられた）信用格付およびそれに伴うPDがステージ分類評価および信用損失引当金の計算に適用される。その結果、一部のエクスポージャーがステージ1からステージ2に移動する。EADおよびLGDについては、実際の減損計算と比べ変更はない。

以下の表は、シナリオAにおける信用損失引当金合計の感応度を示している。

	2020年6月30日現在	
	実際の計上額	シナリオA (1ノッチ引き下げ)
引当金（評価性）		
現金および中央銀行残高	-	-
銀行預入金	0	0
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産	1	1
償却原価で測定される利付有価証券	7	9
償却原価で測定される貸付金および前渡金	219	249
	227	259
引当金（負債性）		
オフバランスシート契約	5	10
	2019年12月31日現在	
	実際の計上額	シナリオA (1ノッチ引き下げ)
引当金（評価性）		
現金および中央銀行残高	-	-
銀行預入金	0	0
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産	1	1
償却原価で測定される利付有価証券	6	6
償却原価で測定される貸付金および前渡金	193	214
	200	221
引当金（負債性）		
オフバランスシート契約	5	8

このシナリオAの結果は、BNG銀行の業績が景気の悪化に影響を受けやすくなったことを示している。

5 金融商品の分類別内訳

2020年6月30日現在

	償却原価	純損益を通じて 公正価値で測定	その他の包括 損益を通じて 公正価値で測定	合計
現金および中央銀行残高	7,695	-	-	7,695
銀行預入金	59	-	-	59
差入現金担保	18,861	-	-	18,861
純損益を通じて公正価値で測定される 金融資産	-	1,516	-	1,516
デリバティブ	-	10,708	-	10,708
その他の包括利益を通じて公正価値で 測定される金融資産	-	-	10,213	10,213
償却原価で測定される利付有価証券	8,064	-	-	8,064
償却原価で測定される貸付金および前渡金	88,681	-	-	88,681
ポートフォリオ・ヘッジ会計を適用する 貸付金に対する価値調整	20,950	-	-	20,950
資産合計	144,310	12,224	10,213	166,747
銀行借入金	9,789	-	-	9,789
受入現金担保	1,279	-	-	1,279
純損益を通じて公正価値で測定される 金融負債	-	692	-	692
デリバティブ	-	26,724	-	26,724
負債証券	117,472	-	-	117,472
受託資金	5,890	-	-	5,890
劣後債務	33	-	-	33
負債合計	134,463	27,416	-	161,879

2019年12月31日現在

	償却原価	純損益を通じて 公正価値で測定	その他の包括 損益を通じて 公正価値で測定	合計
現金および中央銀行残高	1,272	-	-	1,272
銀行預入金	66	-	-	66
差入現金担保	14,643	-	-	14,643
純損益を通じて公正価値で測定される 金融資産	-	1,764	-	1,764
デリバティブ	-	10,004	-	10,004
その他の包括利益を通じて公正価値で 測定される金融資産	-	-	9,222	9,222
償却原価で測定される利付有価証券	7,764	-	-	7,764
償却原価で測定される貸付金および前渡金	88,279	-	-	88,279
ポートフォリオ・ヘッジ会計を適用する 貸付金に対する価値調整	16,462	-	-	16,462
資産合計	128,486	11,768	9,222	149,476
銀行借入金	1,933	-	-	1,933
受入現金担保	1,137	-	-	1,137
純損益を通じて公正価値で測定される 金融負債	-	674	-	674
デリバティブ	-	22,651	-	22,651
負債証券	112,661	-	-	112,661
受託資金	5,575	-	-	5,575
劣後債務	33	-	-	33
負債合計	121,339	23,325	-	144,664

6 金融商品の公正価値

公正価値とは、意思または能力にかかわらず、現在の市場状況の下、測定日時点で、市場参加者間の秩序ある取引により、資産が売却された場合に受け取るであろう移転価格（取引費用調整前）または負債が移転された場合に支払うであろう価格である。評価が市場参加者の観点から行われる必要があるということを想定しており、これにより、金融商品の固有の特徴および制限のみが考慮される。3つのレベルの公正価値の間で区別がなされ、インプットの性質およびその全体の評価にとっての重要性がヒエラルキーの正しい分類によって決定的である。

公正価値ヒエラルキー

- ・ レベル1：活発な市場における、当該商品の、または入手できない場合は同一商品の、（未調整の）相場価格に基づく評価。金融商品は、相場価格が定期的に入手可能である場合、ならびにそれらの価格が現在および定期的に生じる独立当事者間の市場取引を反映している場合に、活発な市場での相場価格があるとみなされる。金融資産および負債の相場価格は、中間市場価格に基づいている。
- ・ レベル2：レベル1で使用された相場価格を除く、直接的または間接的に観察可能な市場データを用いた評価技法に基づく評価。このカテゴリーは、類似した商品の活発な市場での相場価格、同一もしくは類似した商品の活発とはみなされない市場での相場価格、またはすべて市場データから直接的もしくは間接的に観察可能な重要なインプットによるその他の評価技法を用いて評価される商品を含む。
- ・ レベル3：市場で公表されない観察不能なインプットを大幅に用いた評価技法に基づく評価。このカテゴリーは、観察可能な市場データに基づかないインプットを用いた評価技法による商品を含み、そのため、観察不能な市場データが商品の評価に重要な影響を与える。このカテゴリーはまた、類似した商品の相場価格に従って評価された商品も含み、これにより重要で公には観察不能な変更または前提が、商品間の差異を示すために必要となる。

可能な場合、BNG銀行は、価格カーブおよび資金調達カーブを決定するために、相場価格（レベル1）を使用する。BNG銀行は、評価目的で中間市場価格を使用する。中間市場価格の使用は、金融資産および金融負債の市場リスクが相殺される場合、認められている。

多くの場合、BNG銀行は債務者に関し理論的な評価（レベル2）に依拠している。かかる場合は、一般的に金融業界で使用される評価モデルおよび技法に基づき公正価値が決定される。これらの大部分は純現在価値計算に基づくモデルおよびオプション価格モデルである。これらのモデルのための変数は、市場価格、フォワード価格設定、割引の市場条件に沿ったイールド曲線、相関、ボラティリティ、クロスカレンシー・スワップのベースス・スプレッド、取引先の信用力ならびに市場当事者が価格決定に使用するその他の要因、見積り、仮定等の直接的または間接的に客観的に観察可能なインプットに基づく。BNG銀行は、いわゆるスプレッド曲線を、理論的な評価が必要な信用および流動性リスクに関連する金融商品の公正価値を決定するために使用する。これらのスプレッド曲線は、関連する金利曲線ならびに信用および流動性リスクのスプレッドに基づき作成される。信用リスク・スプレッドは、受入担保、保証および満期を考慮に入れ、債務者の信用度に左右される。流動性リスク・スプレッドは、商品の市場性の程度に左右される。個々の顧客および金融商品のリスク・プロファイルは、少なくとも四半期に1回評価される。必要な場合、信用リスク・スプレッドが調整される。

ごく限られた場合に、BNG銀行の金融商品の評価は、かなりの程度まで、市場で公表されない観察不能なインプットおよび経営陣の見積り（レベル3）に基づいている。

デリバティブ取引の公正価値決定の際に、信用評価調整（CVA）および債務評価調整（DVA）が、BNG銀行が日次の担保交換に関する契約を締結していないすべての顧客および金融取引先とのデリバティブ取引すべてに適用される。CVAおよびDVAはまた、BNG銀行が日次の担保交換に関する契約を締結したが、担保額の算定において重要な閾値が適用される顧客または取引先とのデリバティブ取引すべてに適用される。

BNG銀行は自己の信用リスクの決定において、関連するスワップ・カーブに対するスプレッド、すなわち「自己信用調整（OCA）」を適用している。OCAは、「純損益を通じて公正価値で測定される金融負債」に含まれる商品のみに関連する。金融商品がフォワード契約の性格を持つ限り、フォワード・イールド曲線およびフォワード為替相場などの公表されているフォワード価格が使用される。複雑な商品の場合、商品の構成要素は、上記の技法およびモデルに基づき個別に測定される。商品全体の公正価値は構成要素の公正価値の合計として決定される。BNG銀行は、各報告期間末の財務ポジション処理のために継続的に測定される経常的な公正価値のみを適用する。

	2020年 6 月30日現在		2019年12月31日現在	
	貸借対照表		貸借対照表	
	価額	公正価値	価額	公正価値
現金および中央銀行残高	7,695	7,695	1,272	1,272
銀行預入金	59	59	66	66
差入現金担保	18,861	18,861	14,643	14,643
純損益を通じて公正価値で測定される金融資産	1,516	1,516	1,764	1,764
デリバティブ	10,708	10,708	10,004	10,004
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産	10,213	10,213	9,222	9,222
償却原価で測定される利付有価証券	8,064	8,104	7,764	7,897
償却原価で測定される貸付金および前渡金	88,681	109,492	88,279	106,012
金融資産合計	145,797	166,648	133,014	150,880
銀行借入金	9,789	9,680	1,933	1,928
受入現金担保	1,279	1,279	1,137	1,137
純損益を通じて公正価値で測定される金融負債	691	691	674	674
デリバティブ	26,724	26,724	22,651	22,651
負債証券	117,472	117,782	112,661	113,466
受託資金	5,890	6,062	5,575	5,759
劣後債務	33	45	33	45
金融負債合計	161,878	162,263	144,664	145,660

取引を行う際、公正価値のヒエラルキー分類は、分類を決定付けるインプット要因の性質およびその評価全体への重要性を踏まえた、評価に関連する特徴に基づいて決定されている。分類は、取引全体として公正価値に重要性のあるインプットのレベルのうち最も低いものに基づいて行われる。重要性は、評価全体の結果に対する観察不能なインプット要因の影響を、これらの観察不能なインプット要因に関する代替的な仮定の範囲を考慮に入れて決定することにより評価される。四半期毎に、各取引のヒエラルキー分類は評価され、必要な場合、調整される。

以下の表は、公正価値で認識される取引の公正価値ヒエラルキーの概要を示している。

2020年 6 月30日現在				
	レベル 1	レベル 2	レベル 3	合計
純損益を通じて公正価値で測定される金融資産	105	1,215	196	1,516
デリバティブ	-	10,706	2	10,708
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産	10,072	141	-	10,213
金融資産合計	10,177	12,062	198	22,437
純損益を通じて公正価値で測定される金融負債	-	691	-	691
デリバティブ	-	26,723	1	26,724
金融負債合計	-	27,414	1	27,415

2019年12月31日現在				
	レベル 1	レベル 2	レベル 3	合計
純損益を通じて公正価値で測定される金融資産	102	1,221	441	1,764
デリバティブ	-	9,999	5	10,004
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産	9,141	81	-	9,222
金融資産合計	9,243	11,301	446	20,990
純損益を通じて公正価値で測定される金融負債	113	561	-	674
デリバティブ	-	22,647	4	22,651
金融負債合計	113	23,208	4	23,325

レベル 3 項目の公正価値の重要な変動

2020年上半期			
	純損益を通じて公正価値で測定される金融資産	デリバティブ (資産として計上)	デリバティブ (負債として計上)
期首残高	441	5	4
純損益を通じた損益：			
- 利息損益	3	2	2
- 未実現金融取引損益	(3)	(4)	(4)
- 実現金融取引損益	(3)	-	-
	(3)	(2)	(2)
- 投資 / 処分	(239)	-	-
- キャッシュフロー	(3)	(1)	(1)
期末残高	196	2	1

	2019年上半期		
	純損益を通じて公正価値で 測定される金融資産	デリバティブ (資産として計上)	デリバティブ (負債として計上)
期首残高	370	8	8
純損益を通じた損益：			
- 利息損益	5	3	3
- 未実現金融取引損益	44	(2)	(2)
- 実現金融取引損益	-	-	-
	49	1	1
- 投資 / 処分	-	-	-
- キャッシュフロー	(5)	(2)	(2)
期末残高	414	7	7

レベル3項目は主に、ほとんど取引されない仕組利付有価証券に係る。したがって、類似の有価証券について入手できる観察可能な市場データは現在の公正価値を完全に反映するものではない。これらの取引の公正価値は、公表された市場データに基づいて決定され、重要な、市場で公表されない観察不能なインプットを用いて調整される。報告期間中、レベル3からの再分類およびレベル3への再分類は行われなかった。

2007年度に購入した主要なインフレ連動債の「真正売買および買戻し」が2月に成功裏に完了したため、この債券は現在、償却原価で評価されている。これにより、2020年上半期に公正価値によるレベル3のエクスポージャーが減少した。

市場で公表されない観察不能なインプット

モノライン保険会社による保証付の3件のインフレ連動型利付有価証券のスプレッドを決定するため、以下の市場で公表されない観察不能なインプットが使用される。

- ・ 関連する債務者（40％）および関連するモノライン保険会社（30％）の回収率
- ・ 債務者とモノライン保険会社間の相関係数（20％）

これらのインプットは、2019年度と比べ変動していない。

重要なインプット要因の変動に対するレベル3資産および負債の公正価値の感応度

感応度分析では、金利、インフレ、流動性および信用スプレッドの要素が、個別および相関数値の双方で示されている。以下の表は、これらの重要なインプット要因が個別に絶対的の平行に変動した場合のレベル3資産の感応度を示している。これらのインプット要因の間に直接の依存関係はないものの、これらの3つのインプット要因が同時変動した場合の商品の全体的な感応度も示されている。

	2020年 6月 30日	2019年 12月 31日	2020年 6月 30日	2019年 12月 31日	2020年 6月 30日	2019年 12月 31日	2020年 6月 30日	2019年 12月 31日
	純損益を通じて 公正価値で測定 される金融資産		デリバティブ (資産として 計上)		デリバティブ (負債として 計上)		合計	
貸借対照表価額	196	441	2	5	(1)	(4)	197	442
金利								
+10ベース・ポイント	(2)	(10)	0	(1)	0	0	(2)	(11)
-10ベース・ポイント	2	10	0	1	0	0	2	11
+100ベース・ポイント	(21)	(84)	0	(25)	0	3	(21)	(106)
-100ベース・ポイント	24	115	0	8	0	(1)	24	122
インフレ率								
+10ベース・ポイント	2	10	-	-	-	-	2	10
-10ベース・ポイント	(2)	(9)	-	-	-	-	(2)	(9)
+100ベース・ポイント	21	110	-	-	-	-	21	110
-100ベース・ポイント	(19)	(82)	-	-	-	-	(19)	(82)
信用および流動性リスク・スプレッド								
+10ベース・ポイント	(2)	(10)	0	0	0	0	(2)	(10)
-10ベース・ポイント	2	10	0	0	0	0	2	10
+100ベース・ポイント	(21)	(85)	0	20	0	5	(21)	(60)
-100ベース・ポイント	24	116	0	(1)	0	(7)	24	108
重要なインプット合計								
+10ベース・ポイント	(2)	(10)	0	(1)	0	1	(2)	(10)
-10ベース・ポイント	3	10	0	1	0	(1)	3	10
+100ベース・ポイント	(23)	(87)	0	(6)	0	5	(23)	(88)
-100ベース・ポイント	27	121	0	7	0	(7)	27	121

BNG銀行は、ほぼすべての金利リスクをスワップを通じてヘッジしている。このため、金利曲線単独の変動により生じる利付有価証券の公正価値変動は、BNG銀行の損益および株主資本に限定された影響しか与えない。資産および関連スワップの満期までに、これらの市場価値の変動は、すべての当事者が支払義務を果たすことを条件に、ゼロに近づくと思込まれる。他方で、信用リスクおよび流動性リスク・スプレッドの変動により生じた金利変動は、金融商品が公正価値で測定される場合、損益および株主資本に直接影響を与える。

貸借対照表項目「純損益を通じて公正価値で測定される金融資産」のレベル3商品の主要な部分（1億9,600万ユーロ）は、いわゆるインフレ連動債から成り、その金利リスクおよびインフレ・リスクはスワップを用いてヘッジされている。取引のデフォルト・リスクは、いわゆるモノライン保険会社が発行した保証を通じて購入時に保証される。かかる保証の価値をゼロと設定したとすると、これは、金融取引損益に対して2020年上半期末にマイナスの未実現効果2,800万ユーロ（2019年度末：マイナス4,600万ユーロ）となっていた。

「純損益を通じて公正価値で測定される金融資産」項目のこれらの商品の感応度は、2020年度に上昇した。これらの資産の信用スプレッドは、主要な観察不能パラメータである。信用スプレッドの+100ベース・ポイントの変動は、マイナス2,100万ユーロの影響をもたらす。

「デリバティブ（負債として計上）」項目は、フランス国債金利と連動したレベル3の区分処理されたオプションである。このオプションは、「デリバティブ（資産として計上）」項目で認識されているオプションを含む、レベル3のスワップでヘッジされる。これらのデリバティブは2020年7月に満期を迎えた。

償却原価による取引の公正価値ヒエラルキー

以下の表は、貸借対照表上、償却原価で認識される取引の公正価値を決定する方法の概要を示している。

2020年6月30日現在				
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
現金および中央銀行残高	7,695	-	-	7,695
銀行預入金	7	46	6	59
差入現金担保	-	18,861	-	18,861
償却原価で測定される利付有価証券	238	7,392	474	8,104
償却原価で測定される貸付金および前渡金	836	100,274	8,382	109,492
金融資産合計	8,776	126,573	8,862	144,211
銀行借入金	1	9,679	-	9,680
受入現金担保	-	1,279	-	1,279
負債証券	91,453	25,169	1,160	117,782
受託資金	3,045	1,923	1,094	6,062
劣後債務	-	-	45	45
金融負債合計	94,499	38,050	2,299	134,848

2019年12月31日現在				
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
現金および中央銀行残高	1,272	-	-	1,272
銀行預入金	4	55	7	66
差入現金担保	-	14,643	-	14,643
償却原価で測定される利付有価証券	203	7,404	290	7,897
償却原価で測定される貸付金および前渡金	1,079	96,625	8,308	106,012
金融資産合計	2,558	118,727	8,605	129,890
銀行借入金	-	1,928	-	1,928
受入現金担保	-	1,137	-	1,137
負債証券	89,385	22,922	1,159	113,466
受託資金	2,433	-	3,326	5,759
劣後債務	-	-	45	45
金融負債合計	91,818	25,987	4,530	122,335

レベル3に含まれる償却原価で測定される金融資産は主に、BNG銀行の法定顧客に対する自己資本要件が課される貸付金および前渡金に関連する。政府保証に基づく法定取引先に対する貸付金および前渡金は、オランダ王国が発行した債券との強い相関のため、レベル2に含まれる。レベル1に含まれる償却原価で測定される金融負債は、BNG銀行が発行した譲渡可能なベンチマーク債券（「負債証券」項目）に関連する。民間借入はレベル3（「負債証券」および「受託資金」項目）に分類される。

7 信用リスク

支払猶予されたエクスポージャー

支払猶予は、債務者の不安定な財務ポジションの結果、債務者がその債務を果たすことができるよう債務者のために信用条件が変更された信用契約に関連する。モラトリアムに基づき支払猶予期間が与えられているエクスポージャーは、支払猶予として表示されない。

	2020年6月30日現在			
	エクスポージャー 合計	うち支払猶予		合計に占める割合
		減損控除前	減損控除後	
金融資産（デリバティブを除く）				
現金および中央銀行残高	7,695	-	-	0.0%
銀行預入金	59	-	-	0.0%
差入現金担保	18,861	-	-	0.0%
純損益を通じて公正価値で測定される金融資産	1,516	-	-	0.0%
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産	10,213	-	-	0.0%
償却原価で測定される利付有価証券	8,064	-	-	0.0%
償却原価で測定される貸付金および前渡金	88,681	339	309	0.3%
	135,089	339	309	0.2%
オフバランスシート契約				
偶発債務	1,647	-	-	0.0%
取消可能信用供与契約	4,111	7	7	0.2%
取消不能信用供与契約	5,606	2	2	0.0%
	11,364	9	9	0.1%

	2019年12月31日現在			
	エクスポージャー 合計	うち支払猶予		合計に占める割合
		減損控除前	減損控除後	
金融資産（デリバティブを除く）				
現金および中央銀行残高	1,272	-	-	0.0%
銀行預入金	66	-	-	0.0%
差入現金担保	14,643	-	-	0.0%
純損益を通じて公正価値で測定される金融資産	1,764	-	-	0.0%
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産	9,222	-	-	0.0%
償却原価で測定される利付有価証券	7,764	-	-	0.0%
償却原価で測定される貸付金および前渡金	88,279	346	320	0.4%
	123,010	346	320	0.3%
オフバランスシート契約				
偶発債務	1,613	-	-	0.0%
取消可能信用供与契約	3,764	5	5	0.1%
取消不能信用供与契約	7,151	10	10	0.1%
	12,528	15	15	0.1%

債務者の不利な財務ポジションの結果として契約条項が変更された信用契約は、2020年6月30日現在3億4,800万ユーロ（減損控除前）（2019年12月31日現在：3億6,100万ユーロ）であった。支払猶予されたエクスポージャー合計は、12件の債務者（2019年度末：9件の債務者）に関係する。2020年上半期において、BNG銀行によって新たに支払猶予措置は取られなかった。

不良債権

BNG銀行の不良債権エクスポージャーの定義の開示については、注記4（金融資産およびオフバランスシート契約の減損）を参照のこと。不良債権に分類されるエクスポージャーは、以下のすべての条件を満たす場合、再び正常債権とみなされる。

- ・ 債務者が再び、すべての契約条件を満たしている（債務不履行は生じていない）。
- ・ 既存または変更後の支払条件に従って、債務者の状況が、債務者が債務を返済することができる程度まで改善している（「支払可能性がある」）。
- ・ 債務者に90日を超える支払いの遅延がない。

正常債権の支払遅延エクスポージャーの満期分析

数値は、IFRS第9号に基づく減損ステージ3に含まれない支払遅延エクスポージャーで構成されている。モラトリアムに基づき支払猶予期間が与えられているエクスポージャーは、支払遅延として表示されない。

	2020年6月30日現在	2019年12月31日現在
31日未満	-	2
31日以上60日以下	-	-
61日以上90日以下	-	-
90日超	-	-
期末残高	-	2

モラトリアム

COVID-19のパンデミックを受けて、オランダ国内の銀行は顧客を支えるために協働し、支払猶予期間を発表した。これまでのところ、BNG銀行は、エクスポージャーが250万ユーロ未満の事業融資商品を有する顧客向けのモラトリアムに参加している。以下の表は、このモラトリアムに関連する2020年6月30日現在のエクスポージャーの概要を示している。支払猶予期間が与えられているエクスポージャーは、支払猶予として表示されず、すべて正常債権として表示される。オランダにおいて、公的保証制度または立法上のモラトリアムは適用されていない。このモラトリアムはまだ満期を迎えていない。

	2020年6月30日現在			
	帳簿価額総額			
	正常債権			
	うち		うち	
	支払猶予措置を受けた エクスポージャー		当初認識以降に信用リスクの 著しい増大（SICR）があったが、 信用減損がない商品（ステージ2）	
モラトリアムの対象となる				
貸付金および前渡金	7,368	7,368	-	7,368
うち家計	5,646	5,646	-	5,646
うち住宅用不動産の担保付	-	-	-	-
うち非金融会社	-	-	-	-
うち中小企業	-	-	-	-
うち商業用不動産の担保付	-	-	-	-

モラトリアムの対象となる貸付金および前渡金は減損しておらず、信用リスクによる公正価値のマイナスの変動はない。

	2020年6月30日現在					
	帳簿価額総額					
	モラトリアムの満期までの残存期間					
	債務者数	3か月以下	3か月超 6か月以下	6か月超 9か月以下	9か月超 12か月以下	1年超
モラトリアムを申し込んだ						
貸付金および前渡金	42	14,735				
モラトリアムの対象となる						
貸付金および前渡金（承諾済）	21	7,368	98	63	206	360
うち家計		5,646	66	47	190	344
うち住宅用不動産の担保付		-	-	-	-	-
うち非金融会社		-	-	-	-	-
うち中小企業		-	-	-	-	-
うち商業用不動産の担保付		-	-	-	-	-

金融資産および金融負債（デリバティブ）のネットティング

BNG銀行がデリバティブ取引を締結する準備を整えている金融相手先は、信用リスクを減らすためにネットティング契約が提供される。さらに、相対の担保契約が締結される。これらにより、市場価額の動向を担保によって日次で緩和できるようにしている。契約は、規制の変更に応じて必要があれば更新される。これらの契約は、キャッシュフローが中央清算参加者を通じて相殺されない限り、貸借対照表上のネットティングの対象ではない。以下の表は、これらの契約が貸借対照表上のネットティング条件に適合した場合および適合しない場合、ならびに担保契約を考慮に入れた場合のポジションを示している。

	2020年6月30日現在		
	資産として 計上された デリバティブ	負債として 計上された デリバティブ	純額
金融資産および金融負債（デリバティブ）のネットティング			
貸借対照表上のネットティング前の金融資産			
および負債の総価額	14,502	(30,517)	(16,015)
ネットティングされる金融資産および負債の総価額	(3,793)	3,793	0
金融資産および負債の貸借対照表価額 （ネットティング後）	10,709	(26,724)	(16,015)
ネットティング目的のIAS第32号（同一相手先との デリバティブのネットティング）に適合しない			
金融ネットティング商品の価額	(8,002)	8,002	0
担保考慮前のエクスポージャー	2,707	(18,722)	(16,015)
ネットティング目的のIAS第32号に適合しない			
金融担保の価額	(1,279)	18,861	17,582
正味エクスポージャー	1,428	139	1,567

	2019年12月31日現在		
	資産として 計上された デリバティブ	負債として 計上された デリバティブ	純額
金融資産および金融負債（デリバティブ）のネットティング			
貸借対照表上のネットティング前の金融資産			
および負債の総価額	12,184	(24,831)	(12,647)
ネットティングされる金融資産および負債の総価額	(2,180)	2,180	0
金融資産および負債の貸借対照表価額 （ネットティング後）	10,004	(22,651)	(12,647)
ネットティング目的のIAS第32号（同一相手先との デリバティブのネットティング）に適合しない			
金融ネットティング商品の価額	(7,802)	7,802	0
担保考慮前のエクスポージャー	2,202	(14,849)	(12,647)
ネットティング目的のIAS第32号に適合しない			
金融担保の価額	(1,137)	14,632	13,495
正味エクスポージャー	1,065	(217)	848

2020年6月30日現在、デリバティブに係る差入担保は189億ユーロ（2019年度：149億ユーロ）であった。BNG銀行の信用格付が3ノッチ引き下げられたとしても、当該金額に影響しない（2019年度：3,400万ユーロ増加する）ことになる。BNG銀行の流動性ポジションの強さは、担保債務を満たし、また担保債務の変動を吸収するのに十分である。

利付有価証券（IBS）投資

BNG銀行のIBSポートフォリオは、主に流動性管理目的で保有されている。ポートフォリオは、質の高い債券で構成され、その大部分は中央銀行が担保として受け入れる。BNG銀行のIBSポートフォリオ全体は流動性ポートフォリオとALM（資産および負債管理）ポートフォリオに分けられる。流動性ポートフォリオは、譲渡性の高い有価証券のみで構成され、以下の表に示される様々なLCRレベルに従って細分化されている。ALMポートフォリオは、有価証券の種類によって細分化されている。ポートフォリオの動向は毎月報告される。外部格付および内部格付等の要因を用いて、BNG銀行はその動向を個別に監視している。これらのポートフォリオ内の資産は、年2回減損分析を受ける。

各格付カテゴリーについて以下に表示された金額は、残存元本額で、百万ユーロ単位である。貸借対照表価額合計（減損控除前）も最右列に示されている。価額合計191億1,300万ユーロは、貸借対照表項目「その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産」（102億1,300万ユーロ）、「償却原価で測定される利付有価証券」（80億6,400万ユーロ）および「純損益を通じて公正価値で測定される金融資産」（8億3,600万ユーロ）で認識される。

2020年 6 月30日現在							
	AAA	AA	A	BBB	投資不適格	額面価額 合計	貸借対照表 価額合計
流動性ポートフォリオ							
レベル - 政府 / 国際機関	5,914	2,668	220	-	46	8,848	9,994
レベル B - カバード・ボンド	1,499	-	5	-	-	1,504	1,560
レベル A - 政府 / 国際機関	-	55	-	-	-	55	105
レベル B - 法人	-	-	25	-	-	25	26
レベル B - RMBS	546	-	-	-	-	546	550
	7,959	2,723	250	0	46	10,978	12,235
ALMポートフォリオ							
RMBS	226	269	118	-	22	635	633
ABS	-	55	106	25	54	240	236
RMBS-NHG	3,452	83	151	-	-	3,686	3,691
その他	343	356	456	252	73	1,480	2,318
	4,021	763	831	277	149	6,041	6,878
合計	11,980	3,486	1,081	277	195	17,019	19,113

2019年12月31日現在							
	AAA	AA	A	BBB	投資不適格	額面価額 合計	貸借対照表 価額合計
流動性ポートフォリオ							
レベル - 政府 / 国際機関	5,351	2,204	220	135	46	7,956	9,125
レベル B - カバード・ボンド	1,370	-	-	-	-	1,370	1,428
レベル A - 政府 / 国際機関	-	59	-	-	-	59	102
レベル B - 法人	-	-	25	-	-	25	25
レベル B - RMBS	1,061	-	-	-	-	1,061	1,068
	7,782	2,263	245	135	46	10,471	11,748
ALMポートフォリオ							
RMBS	20	295	127	-	23	465	463
ABS	-	58	117	28	55	258	254
RMBS-NHG	3,008	89	159	-	-	3,256	3,260
その他	473	380	442	260	75	1,630	2,333
	3,501	822	845	288	153	5,609	6,310
合計	11,283	3,085	1,090	423	199	16,080	18,058

長期外国エクスポージャー

以下の表は、長期外国エクスポージャーの概要を示している。デリバティブ取引および短期取引（銀行と特定の現金担保を含む。）は含まれていない。表示された金額は、残存元本額で、百万ユーロ単位である。

2020年 6 月30日現在							
	AAA	AA	A	BBB	投資不適格	額面価額 合計	貸借対照表 価額合計
国際機関	141	149	-	-	-	290	298
国際開発金融機関	339	-	-	-	-	339	371
オーストリア	-	896	-	-	-	896	964
ベルギー	-	276	-	132	-	408	578
デンマーク	90	-	-	-	-	90	91
フィンランド	-	486	-	-	-	486	540
フランス	548	801	100	5	-	1,454	1,757
ドイツ	1,754	130	45	-	-	1,929	2,189
イタリア	-	15	18	-	57	90	86
ルクセンブルク	144	-	-	-	-	144	146
ポルトガル	-	-	51	50	100	201	205
スペイン	63	254	303	-	68	688	787
スイス	-	-	86	-	-	86	96
英国	652	355	279	249	50	1,585	2,408
米国	22	-	-	-	-	22	24
合計	3,753	3,362	882	436	275	8,708	10,540

2019年12月31日現在

	AAA	AA	A	BBB	投資不適格	額面価額 合計	貸借対照表 価額合計
国際機関	269	204	-	-	-	473	493
国際開発金融機関	405	-	-	-	-	405	434
オーストリア	-	471	-	-	-	471	521
ベルギー	-	281	-	136	-	417	595
デンマーク	90	-	-	-	-	90	91
フィンランド	-	486	-	-	-	486	543
フランス	496	806	100	5	-	1,407	1,678
ドイツ	1,453	30	54	-	-	1,537	1,815
イタリア	-	19	18	135	60	232	234
ポルトガル	-	-	54	50	100	204	209
スペイン	65	276	319	-	69	729	830
スイス	-	-	90	-	-	90	102
英国	609	380	301	261	54	1,605	2,291
米国	22	-	-	-	-	22	23
合計	3,409	2,953	936	587	283	8,168	9,859

イタリアおよびスペインの投資不適格項目（すなわち、BBB-以下の格付の項目）は、住宅ローン担保証券（RMBS）取引を含む利付有価証券に関係する。ポルトガルおよび英国の投資不適格のエクスポージャーは、インフラ、教育、エネルギーおよびヘルスケアの分野での少数の民間プロジェクト・ファイナンスのスキームに関係する。投資不適格の外国エクスポージャーの公正価値合計は、2億9,100万ユーロ（2019年度末：2億9,100万ユーロ）であった。

オフバランスシート契約

偶発債務

これは、BNG銀行が第三者のために保証を発行した取引から生じる一切の契約債務を含む。これらのいわゆる信用状は、預金または公的機関の副保証によりカバーされる。BNG銀行は、借主が債務不履行の場合に支払う必要がある原貸付元本額で偶発債務を計上している。

	2020年6月30日現在	2019年12月31日現在
偶発債務	1,647	1,613

取消可能信用供与契約

これは、取消可能な当座勘定信用供与契約に帰属する一切の契約債務を含む。

	2020年6月30日現在	2019年12月31日現在
取消可能信用供与契約	4,111	3,764

取消不能信用供与契約

これは、貸付金および前渡金を供与することになりうる一切の取消不能な契約債務を含む。以下の表で、これらの契約は、与信枠ならびに契約済み貸付金および前渡金の将来の実行に区分される。

	2020年 6 月30日現在	2019年12月31日現在
与信枠の未使用部分に関する基本契約	3,824	5,230
将来実行予定の契約済み貸付金および前渡金	1,782	1,921
合計	5,606	7,151

貸借対照表日以降の事象

貸借対照表日以降、中間報告書の数値または開示に調整が必要な報告すべき事象はない。

第 3 【外国為替相場の推移】

(1) 【当該半期中における月別為替相場の推移】

該当事項なし

(2) 【最近日の為替相場】

該当事項なし